

日頃より弊社の米をお買い上げ頂き誠にありがとうございます。心からお礼を申し上げます。

昨年より降り続いた大雪は、年が明けても全くやむ心配がなく、岩見沢市を中心とした空知地方に大きな被害と経済的な混乱をもたらしました。このことはテレビなどで大きく取り上げられ、全国的にも注目を浴びたところです。雪の事故も多く発生しています。お気の毒ですが、ここ沼田町や近隣の市町村でも、数名の方が屋根雪を下ろす作業中に誤って転落したり、落ちてきた雪の下敷きになって亡くなっています。その多くはお年寄りなのですが、この辺りに地方が抱えている様々な問題点が何となく垣間見えるような気がしています。それは、地域に除雪を受け持つ若い人がいないということ。ある集落において、65歳以上の人口がその集落の総人口の過半数を超えるような集落のことを「限界集落」というのだそうです。自宅の屋根を覆い尽くす雪の山を見上げながら、やむにやまれず梯子をかけて雪下ろしをする老人。最近、テレビや新聞でこの「限界集落」という単語を盛んに見聞きするようになりましたが、こういった事故などもその象徴的な表れの一つなのかも知れません。

日本は確実に過疎化、高齢化社会に向かっています。大都会の中心ではドーナツ現象といい、田舎に行けば限界集落という。そういう中であって、どんな状況においても我々がこの先守っていかねばならないものの一つに「農地」があります。日本の「農地」は過去に莫大な投資がされている、いわば世界を見渡しても他に類を見ないほど優れた「施設」なのだと思えます。この素晴らしい「施設」があって、初めて美味しい米が出来ることを自分たちは忘れてはいけません。最近、特にそう感じています。



昨年暮、本社の雪庇を落とす社長(写真左側)と大掃除のようす(12月30日)



農場と本社に供えられた鏡餅です(12月30日)



トラクターを使って倉庫の除雪作業(1月15日)



大掃除の後、1年間の感謝を込めて神棚に参拝(12月30日)



年が明けて2012年、北海道農業研究センター広報の阿部さんが「ゆきさやか」のPRを兼ね新年のご挨拶のため来社されました(1月6日)



昨年末から空知地方に降り続いた大雪は年が明けても降り止まず、ハウスの鉄骨が変形するのを防ぐため除雪作業をすることに…(1月17日)

冬は、除雪作業の傍ら「くん炭」を製造しています。こうして冬の間製造した「籾殻くん炭」は、春に土と混ぜて育苗ハウスの苗床として使います。「くん炭」は多孔性でケイ酸質を多く含むため、共生細菌の発生を促し、病気に負けない丈夫な苗を育てるための有効な資材になります。



くん炭製造機(2010年10月に購入)



「籾殻くん炭」を製造する仮小屋の除雪作業(1月15日)



青空に「くん炭」を製造する煙がたなびく…冬の風物詩?(1月20日)

「籾殻くん炭」の作り方



①くん炭製造機に「籾殻」を投入 ②着火しやすいように新聞紙などを上に乗せる ③蓋をして密閉し、煙突を装着する



④ライターで点火 ⑤着火を確認 ⑥下まで火が通ったかを後で確認するために、割り箸などを最下部に装填する



⑦数時間後、出来上がった「くん炭」を鉄製の保管箱に収納 ⑧出来上がった「籾殻くん炭」 ⑨最後に蓋をして冷まします

製品の製造過程で発生した副産物を上手に利用するのも生産者の腕の見せ所です。

これからも安全で美味しいお米の生産に努めますので、引き続きご愛顧のほどよろしくお願いいたします。

インターネットで美味しいお米♪

(株)空知こめ工房 ホームページ

<http://www.sorachi-kome.jp/>

ブログ「生産日誌」更新中です(見て下さいね)